

令和4年度 環境で地域を元気にする
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業

成果共有会 発表資料

活動団体の本事業への関わり

今年度より“環境整備”に取り組む	
昨年度から引き続き“環境整備”に取り組む	✓

活動団体名：西表島農業青年クラブ

活動地域：沖縄県 西表島

活動におけるテーマ

『 人も自然も観光も循環する西表島 』

活動団体および活動地域の紹介

西表島農業青年クラブとは

- ・ 西表島の45歳以下の農業者で組織されている
- ・ 主に農業の技術の発展にとりくみ、九州大会や全国大会でも表彰されている
- ・ 取組作物は、お米、パイン、マンゴー、サトウキビ、畜産等



西表島とは

- ・ 2021年に世界自然遺産に登録される程の圧倒的な大自然が広がる島
- ・ 様々な伝統行事や祭祀があり芸能も盛んな島

地域循環共生圏を実現することで目指す地域の姿

環境

- ・ 海洋環境への影響の軽減
- ・ 生物多様性の保全

経済

- ・ 循環型の有機栽培の島
- ・ 人、自然、観光が持続可能

社会

- ・ 島民が住み続けたい島
- ・ 島の魅力を島で感じる

環境保全の
基金が集まる

使用する農薬
が減る

島内産品が
島内で消費される

資源が島外へ
流出しない

島民の
収入向上

島外消費者の
購入増加

観光客が
長く滞在する



生き物に優しい農業
製品のブランド化

学校給食と連携した
島内消費と食育

ホテルや宿泊施設と
連携した島内消費

ホテル業者
民宿経営者
農家

観光×地産地消の
ツアーコンテンツ

地域通貨×観光

堆肥回収の際に
島民に農作物販売

有機作物の島内循環

小中学校 給食センター
ホテル業者
民宿経営者

エコツーリズム
協会
ツアー業者

観光の島内循環

西表財団

経産牛の島内
肥育事業

畜産農家

堆肥を使った農業

キビ農家
パイン農家
米農家

観光客 お土産を販売
製糖工場 する島民

経産牛の島外流出

生ごみの
堆肥化

農業廃棄物の
堆肥化



畜産農家

観光客の短時間滞在

オーバーツーリズム
の懸念

宿泊施設等の生ごみ
野菜やフルーツの残渣
家庭からの生ごみ

生ごみコンポスト
の家庭配布

島内での精米
ライスセンター
の設置

堆肥化施設
の設置



サトウキビ
(バガス/ハガラ)

生ごみの未処理
共同コンポストの臭い

コンポスト
配布実験

**堆肥を使用した
有機農業**

堆肥化のための
資源調達

牛糞
稲わら・もみ殻

高い輸送コスト
→農家の負担や環境負荷

農作物の島外流出と
島外作物への依存

農薬や化学肥料による
生物多様性への影響

牛の糞尿の未処理

課題
今年の実施
今後実施
将来実施

地域のありたい未来実現のための これまでの歩み

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
事業全体の予定			全国キックオフ ミーティング					沖縄ブロック 中間共有会				全国 成果共有会
実施したこと	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 100%; height: 20px; background-color: #e0e0e0; border: 1px solid #ccc;"></div> <div style="width: 80%; height: 20px; background-color: #e0e0e0; border: 1px solid #ccc;"></div> <div style="width: 20%; height: 20px; background-color: #e0e0e0; border: 1px solid #ccc;"></div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 5px;"> <div style="width: 100%; text-align: center;"> <p>牛の肥育</p> </div> <div style="width: 80%; text-align: center;"> <p>生ゴミ堆肥の実験</p> </div> <div style="width: 20%; text-align: center;"> <p>生ゴミBOX作成と配布</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 5px;"> <div style="width: 100%; text-align: center;"> <p>牛の屠殺</p> </div> <div style="width: 20%; text-align: center;"> <p>ステーキホルダーMT</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 5px;"> <div style="width: 100%; text-align: center;"> <p>堆肥場建設に向けた要請</p> </div> <div style="width: 20%; text-align: center;"> <p>牛肉の試食会</p> </div> </div>											

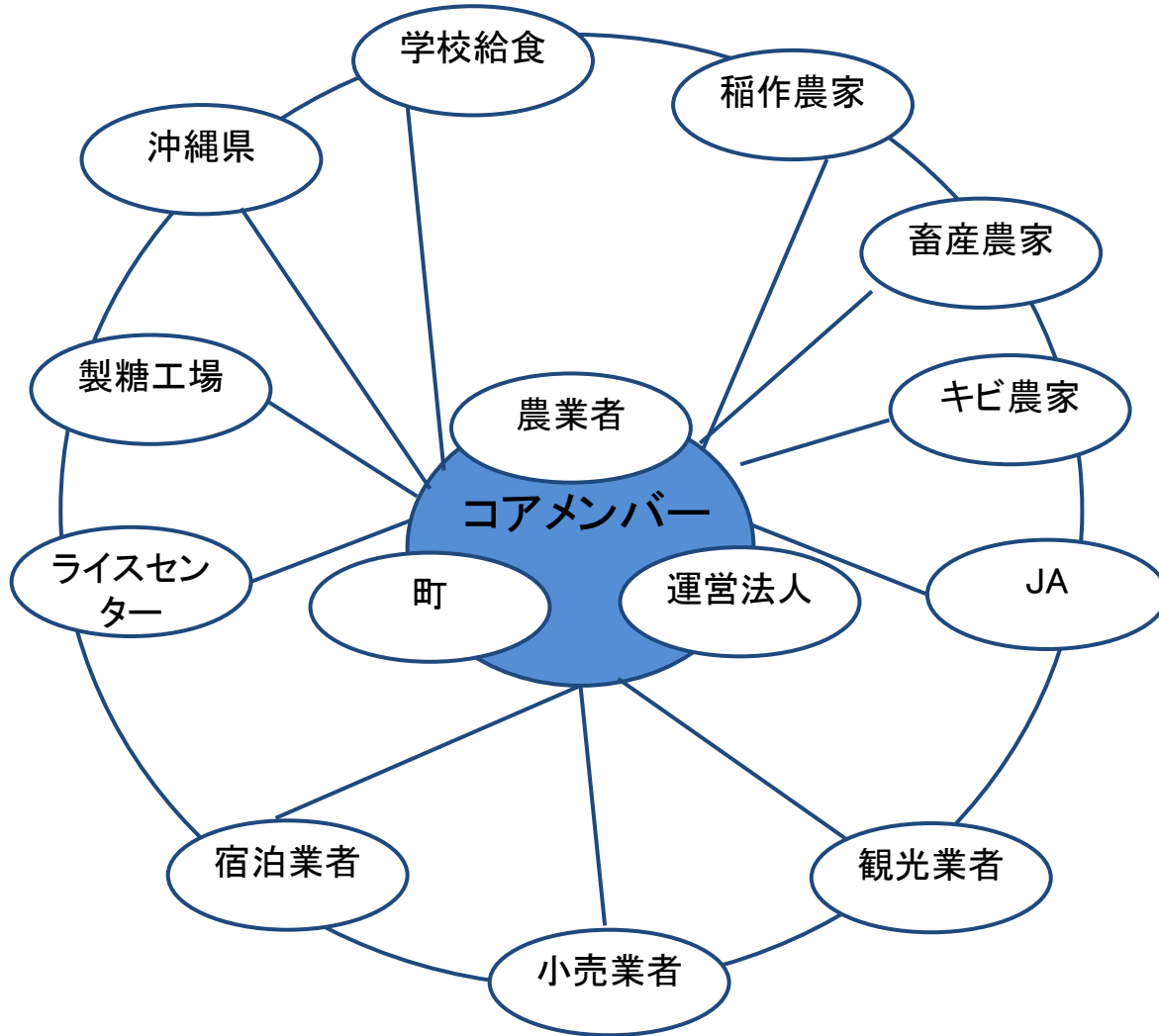
■牛の肥育から屠殺、試食まで行った事で牛肉の地産地消の可能性を見いだせた。またこれにより飼料用米等を通じて農畜連携に向けても一歩進んだ。

■生ゴミBOXを作り配布する事で、生ゴミの堆肥化に向けて協力者を増やすことに繋がっている。

■ステーキホルダーミーティングを通して、今後の目指す方向性を一致させることができた。

現状の地域プラットフォームと取組を通じての変化

【現状の地域プラットフォーム】



【地域プラットフォームの変化】

- 今回の取組を経て地域プラットフォームの人達の地産地消や体にいい物への関心と実現に向けた意識を高める事ができた。
- 今回は実際にオーガニックな形で育てた牛肉の試食や、生ゴミBOXの作成、配布、便利さの体験等、成果が伴う1年となったため、地域や関係者の理解が深まったと感じている。
- 行政側もこのような取組に対し、小さな仮の堆肥場建設の予算をつけて頂き、現在着工中である。

取組を通しての成果と新たに見えてきた課題

■（仮）堆肥場の建設が着工した

・今後の堆肥場の建設の参考となる、仮の堆肥場が着工した

■牛肉の地産地消とお披露目

・配合飼料をたあげない牛の肥育を行う事ができ、その牛の肉のお披露目会を開くことができた

・SHミーティングの中でもリゾートホテルさんや学校給食さんも積極的に使用したいと頂いている

■飼料の地産地消に向けた取組を始めた

・牛の肥育をする事で飼料用米との連携や資材の地産地消の一步目を踏み出せ配合飼料の値上げに影響されない体制に近づくことができた

■生ゴミBOXを作製し配布した

・生ゴミBOXを配布する事で生ゴミ堆肥についての関心を持つ人を増やし、共同コンポストの課題解決に少し近づくことができた。

■課題やボトルネック

・（仮）堆肥場の着工が始まったが籾殻を得る為の小さなライスセンター的な施設の建設の目処が立っておらず、ハガラやバカスを副資材として使用することになる為、参考事例があまりない。

・牛の肥育にあたり、毎日のエサやりや有刺鉄線の管理などが大変である。

・飼料の地産地消を進めるにあたり大豆を食べさせたいが、大豆農家は一件もおらず、大豆の生産の取組も同時に行う必要がある。飼料用のお米も小さい粉碎機しかなく、粉碎するのに時間がかかっている所以需要にあった粉碎機も今後は必要となる。

・生ゴミBOXは好評ではあるが、これが今後採算ベースにのせるために有料となった際に加入者がいるかはまだ不透明。

活動における今後の展望

■ 牛の飼料の完全な地産地消化とオーガニック化によりブランド牛の創出

牛のエサは地元で取れる牧草や大豆、飼料用米や光合成細菌等まかない、脂身の多い肉ではなく健康で育つジビエのような肉を目指していく。その肉が学校給食やホテルの食事の魅力、BBQなどの新たな観光の形としていく。

■ 農業、畜産、観光等の連携により、循環する地域を作る

農業も畜産も観光もそれぞれが連携する事で課題の解決と国際状況等に左右されない強い連携を作り、地域で循環する共生圏を作り出していく

■ 生ゴミBOXの普及

生ゴミBOXの普及率を上げていき、共同コンポストの利用率を下げる事で、共同コンポスト側の課題も解決していく

■ 活動の普及

これらの取組は西表島という離島のへき地での取組である為、うまく行く事で他の離島やへき地でも取り組む事が可能である。成功事例として示していきたい。